

慰霊の日特集

六月二三日、摩文仁にある沖縄県立工業健児鎮魂之塔に同窓会役員、PTA役員、本校職員・生徒、遺族らが集まり、犠牲者の冥福を祈りました。

以下に、現地にある説明板の全文を掲載します。

沖縄県立工業健児鎮魂之塔

太平洋戦争の末期、昭和十九年三月、大本営は沖縄守備隊第三二軍を新設し、



政府は五月二日戦時教育令を公布。米軍機動部隊の沖縄攻略に備えて、飛行場、港湾等各種陣地構築に一般県民、各中等学校生、さらに小学生までも動員した。同年十二月、軍命により第五砲兵司令部(球九七〇〇部隊)が工業学校生徒に無線・有線・暗号等の特訓し、昭和二十年二月各部隊に配属。学校では鉄血勤皇隊を組織、米軍機動部隊の上陸に備える。同年三月二三日、米軍機動部隊艦載機による空爆で沖縄戦の火蓋が切ら

れ、遂に昭和二十年四月一日米軍沖縄本島中部西海岸に上陸。水平線まで埋め尽くす艦艇による艦砲射撃等で日米両軍による国内で唯一住民を巻き込み山野が変貌する熾烈な地上戦が六月下旬の戦闘終了までの三ヶ月間続く。日本軍は米軍の圧倒的優勢の前になすすべもなくこの最南端一帯に撤退。学徒通信兵も当該地に転戦するが、同年六月十九日米軍に包囲され、その夜、敵陣に突入を決行。奮戦空しく散華。沖縄戦で、教頭、

教職員、学徒隊では各中等学校中最も多くの犠牲者を出す悲惨なものとなった。この実状を後世に語り継ぐため、工業学徒通信隊最後の地に慰霊塔を建立する。尚、この塔造形の意義は、背面に建つ七本の柱(健児)が一本の大貫によって、貫(団結)かれ、がっちりトスクラムを組んで碑身を護り、碑身上部の雲間には平和のシンボルの鳩三羽を飛ばす。又、教職員や学徒隊、そして通信隊員の名前を彫り込んだ名盤台天端の三つ



また、敷地内にある別の碑にはこう刻まれています。

昭和二十年乙酉六月四日 午前七時字摩文仁百六番地 徳村氏の屋敷内に於て艦砲直撃にあい同級生九人即死。沖縄県立工業学校進級二年生通信隊暗號班九人の 霊骨を蔡る。

勝連村平安名 大村徳志郎 同 津堅 渡名喜 實 大宜味村田嘉里 宮城 信雄 大里村與那原 上原 清義 其他之五人の氏名が不明

23日に行われた第99回全国高等学校野球選手権沖縄大会の1回戦において、沖縄工業高校は辺土名高校と対戦し、18-0の5回コールド勝ちで初戦を突破しました。

2回戦は、7月1日(土)の9:00より北谷公園野球場において読谷高校と対戦予定です。

野球初戦突破

